

多摩川や市内の川でみられる 底生動物と水質との関係

きれいな川にしかすめない生きもの

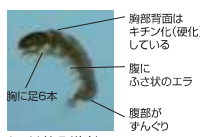
よごれた川にもすめる生きもの

この表は、環境省が定める水生生物による日本版平均スコア法に基づいて色分けを行っております。



カワニナ
◀ 20~30mm ▶

殻頂は欠けていることがある
縦長な巻貝
ホタルのエサになる貝。流れのゆるやかなところの石や泥底に生息する。



シマトビケラ(幼虫)
◀ 8~15mm ▶

胸部背面はキチン化(硬化)している
腹にふさ状のエラ
腹部がずんぐり
石の表面や隙間にクモの巣のような網をはることが多い。



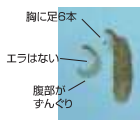
ヒメシロカゲロウ(幼虫)
◀ 2~5mm ▶

胸に足6本
第2腹節のエラは四角形で大きい
尾は3本
体は細長い



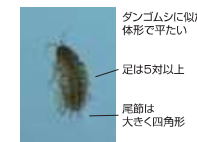
コカゲロウ(幼虫)
◀ 5~8mm ▶

触覚の長さは頭幅の2~3倍
胸に足6本
腹の横に葉状のエラ
尾は3本
体は細長い



ヒメトビケラ(幼虫)
◀ 3~5mm ▶

胸に足6本
エラはない
腹部がずんぐり
砂粒や藻類で巣を作る。とても小さい。



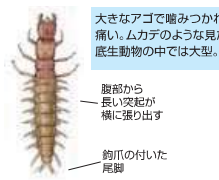
ミスムシ
◀ 5mm程度 ▶

ダンゴムシに似た体形で平たい
足は5対以上
尾節は大きく四角形
水草の間や石の下などをゆっくりに歩いて歩く。



チョウバエ(幼虫)
◀ 10mm未満 ▶

体表に細かい毛があり、全体的に淡色。温度の高い汚れた場所を好む。



ヘビトンボ(幼虫)
◀ 50~60mm ▶

大きなアゴで噛みつかれると痛い。ムカデのような見た目。底生動物の中では大型。
腹部から長い突起が横に張り出す
鉤爪の付いた尾脚



ガガンボ(幼虫)
◀ 9~50mm ▶

頭部は退化
足はない
呼吸器と肉質突起



コオニヤマン(幼虫)
◀ 31~35mm ▶

うちわ型の触覚 体のわりに頭が小さい
胸に足6本
尾はトゲ状
体は平たい



ゲンジホタル(幼虫)
◀ 25mm程度 ▶

頭の後ろに黒い模様
腹の両側にトゲのようなエラ



オナシカゲラ(幼虫)
◀ 5~10mm ▶

胸に足6本 爪は2本
腹側面にエラはない
尾は2本



シジミ
◀ 10mm程度 ▶

三角形 2枚貝
幼貝は黄色で、成長するにしたがって黒くなる。



モノアラガイ
◀ 5~10mm ▶

殻は薄い 入口は大きい 右巻き
殻の上がった方を上にして見て、口が右側についている。



ヒル
◀ 10~40mm ▶

前吸盤は円形
体は細長く 平たいかまぼこ状
伸び縮みしなから動く
2本の黒い縦線があるのはシマイシビル。貝類やミズシ等の体液を吸う。



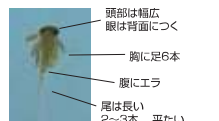
ユスリカ(腹脚あり)(幼虫)
◀ 2~15mm ▶

頭部
体は細長い
2対のエラ
くねくね動く
汚れた水域の泥の中などにいる。



サカマキガイ
◀ 5~10mm ▶

殻は薄い 入口は大きい 左巻き
モノアラガイよりさらに汚濁に強い。



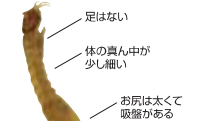
ヒラタカゲロウ(幼虫)
◀ 5~15mm ▶

頭部は幅広く 眼は背面につく
胸に足6本
腹にエラ
尾は長い 2~3本 平たい
体が平たいので水の抵抗をあまり受けずに石の表面をはい回れる。



ヒラタドロシ(幼虫)
◀ 5~10mm ▶

だ円形
背面は甲ら状
平たい
石の表面にはりついている。流れが速いところにもいる。



フユ(幼虫)
◀ 4~8mm程度 ▶

足はない
体の真ん中が少し細い
お尻は太くて吸盤がある



ハグロンボ(幼虫)
◀ 22~26mm ▶

触覚が長い
胸に足6本
体は細長い
尾は長く突き出ている3本
植物の根際で生息する。幼虫は淡褐色で、成虫は黒色。



ユスリカ(腹脚なし)(幼虫)
◀ 2~15mm ▶

腹部に腿がないため酸素が少ないところでは生きられない。



オニヤマン(幼虫)
◀ 40~50mm ▶

触覚は短い
胸に足6本
体の表面にたくさん毛
体は円筒形
尾はトゲ状
砂泥底や落ち葉の下に潜っている。大型なヤゴ。



ヒラマキガイ
◀ 5~10mm ▶

殻の形は円盤状に巻く
流れが緩やかで植物が豊富な場所に生息。